第６回　丸森地区河川防災ステーション利活用検討部会

日時：令和５年７月 14 日（金）14：30～
場所：丸森町役場　　３０２会議室

次　　第

１　開　　会

２　あいさつ

３　第５回検討部会及びこれまでの検討経過　資料-1、資料－2

４　今年度のスケジュール　資料-3

５　河川防災ステーション利活用計画　資料-4

（１）河川防災ステーションの利活用方針

（２）（仮称）川の駅の整備方針

（３）河川防災ステーションの施設レイアウト

（４）かわまちづくり計画等の検討

（５）対岸高水敷の樹木伐採

６　その他

・次回の日程について

７　閉　　会

資料―２

これまでの検討経過

➢ 令和２年度

①令和元年東日本台風災害からの復旧・復興を目指し、新たな防災拠点整備を要望
②仙台河川国道事務所の助言を受け、河川防災ステーション整備検討を開始
③河川防災ステーション整備計画の登録（水管理・国土保全局長）　令和３年３月 18 日

➢ 令和３年度、４年度

年度	令和３年度	令和４年度
回数	丸森地区河川防災ステーション整備・利活用検討委員会　３回 〃　に関する説明会　１回	丸森地区河川防災ステーション利活用検討委員会　２回 〃　検討部会　５回 視察研修　１回
目的	河川防災ステーションの基盤整備内容の確定 平常時利用構想の絞り込み （整備メニューの確定）、課題整理	主に平常時の利活用に関して ・水防センターの機能、施設の運営方法など、意見交換 ・周辺を含めた利活用に関する意見交換
主な内容	①河川防災 ST　整備内容についての意見収集、修正内容説明 上面配置、平常時利活用にむけた課題を説明 ②平常時利活用の実現可能な構想案の位置・整備内容（案） 実現可能な構想案のメリット・ディメリットや課題を説明	主に意見交換にて議事を進行。部会員による議論の熟成が大きな成果。 ・丸森の中心街の観光戦略、（仮）川の駅（観光交流センター・水防センター）の役割およびフットパス（川風トレイル）について ・水防センターの整備や運営体制、および費用について ・水防センターのブロックプランについて ・対岸の高水敷を含めた新たな展開について
大まかな アウトプット	①河川防災 ST　上面レイアウトを修正（左折レーン、ボックス閉塞、資材配置変更等）。 ②平常時利活用構想案の意見収集、構想案のとりまとめ。 ⇒整備メニューを確定し、R4 年度に具体の利活用検討ができるよう課題を整理。	・河川防災ステーションは、「町のゲートウェイ」として、「健康とアウトドア」をキーワードに展開する。 ・利活用の具体案：フットパス・トレイル、阿武隈ライン舟下り、健康とアウトドア（サウナ）、丸森ならではの食、サイクリング、アウトドアメーカーとの連携等。 ・レイアウトについて、以下２点は事務局の宿題となった。①備蓄資材置き場を目立たなくする段差の工夫。②土砂置き場の緩やかな起伏配置の工夫。 ・視察先（石巻かわまちオープンパーク、いしのまき元気、かわまちテラス閖上）の運営体制や状況を参考に、「まちづくり会社」を軸とした体制・事業スキームについて事務局より情報提供。 ・水防センターの運営方法について意見交換（公設民営、民設民営、収益、経営者について等々）。運営体制、水防センターの商用機能については引き続き検討する。 ・高水敷伐採について、国土交通省より情報提供。引き続き利活用案を検討するとともに、残す樹木について現地立会を予定する。

3　今後のスケジュール

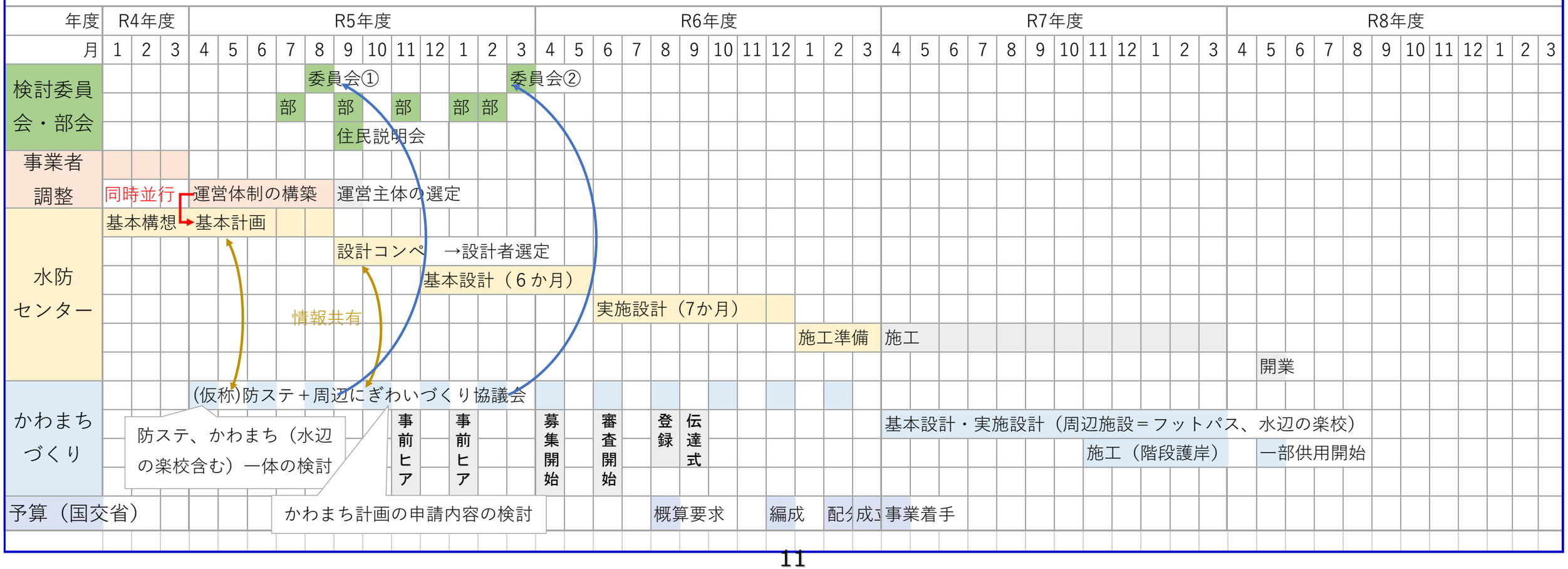
資料-3

①　整備スケジュール

事業 ＼ 年度			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
防災拠点の整備									
設計	防災拠点（造成、資材）	国	予備設計	詳細設計					
	水防センター	町		基本構想・計画	基本設計・実施設計				
工事	防災拠点（造成、資材）	国		用地確保	盛土工	舗装・排水工 資材配置	河川防災ステーション　利用開始		
	水防センター	町					水防センター建設	水防センター　利用開始	

※　国　：　国土交通省　東北地方整備局　仙台河川国道事務所
※　町　：　宮城県丸森町

②　検討部会及びかわまちづくりスケジュール



第６回丸森地区河川防災ステーション利活用検討部会　説明資料

資料－４

水防センターのイメージ：令和元年10月の台風19号の際の人命救助の拠点
緊急援助隊（消防・警察）、自衛隊が人命救助のための拠点として利用したのが舘矢間まちづくりセンターです。緊急車両数十台で、隊員が集結し、指揮系統を整理してこの場所から救助現場に向かいました。

観光交流センターの飲食・物販コーナーのイメージ（川が見える）
HASSENBA（熊本県人吉市、球磨川くだり発船場）/https://note.com/irukaoyaji/n/n1deb33fa1411

民間事業者によるサウナ施設のイメージ
不動尊公園内のMARUMORI―SAUNA

民間事業者による船下りのイメージ
阿武隈ライン船下り

フットパス・ウォーキングのイメージ
ブラマルモリ・丸森中心部編『町場替えと災害』のモニターツアー
地元ガイド役は斎藤信一さん。鳥屋舘（現「鳥屋嶺神社」周辺）中心に町場が配置されたが、繰り返される水害対策のため、1801年から町場替えが行われた。

－　目次　－

（１）河川防災ステーション利活用方針 ---------- 1
（２）（仮称）川の駅の整備方針 ---------- 3
（３）河川防災ステーションの施設レイアウト ---------- 5
（４）かわまちづくり計画等の検討 ---------- 6
（５）対岸高水敷の樹木伐採 ---------- 12

令和５年７月１４日
丸森町　・　国土交通省　東北地方整備局仙台河川国道事務所

（１）河川防災ステーション利活用方針

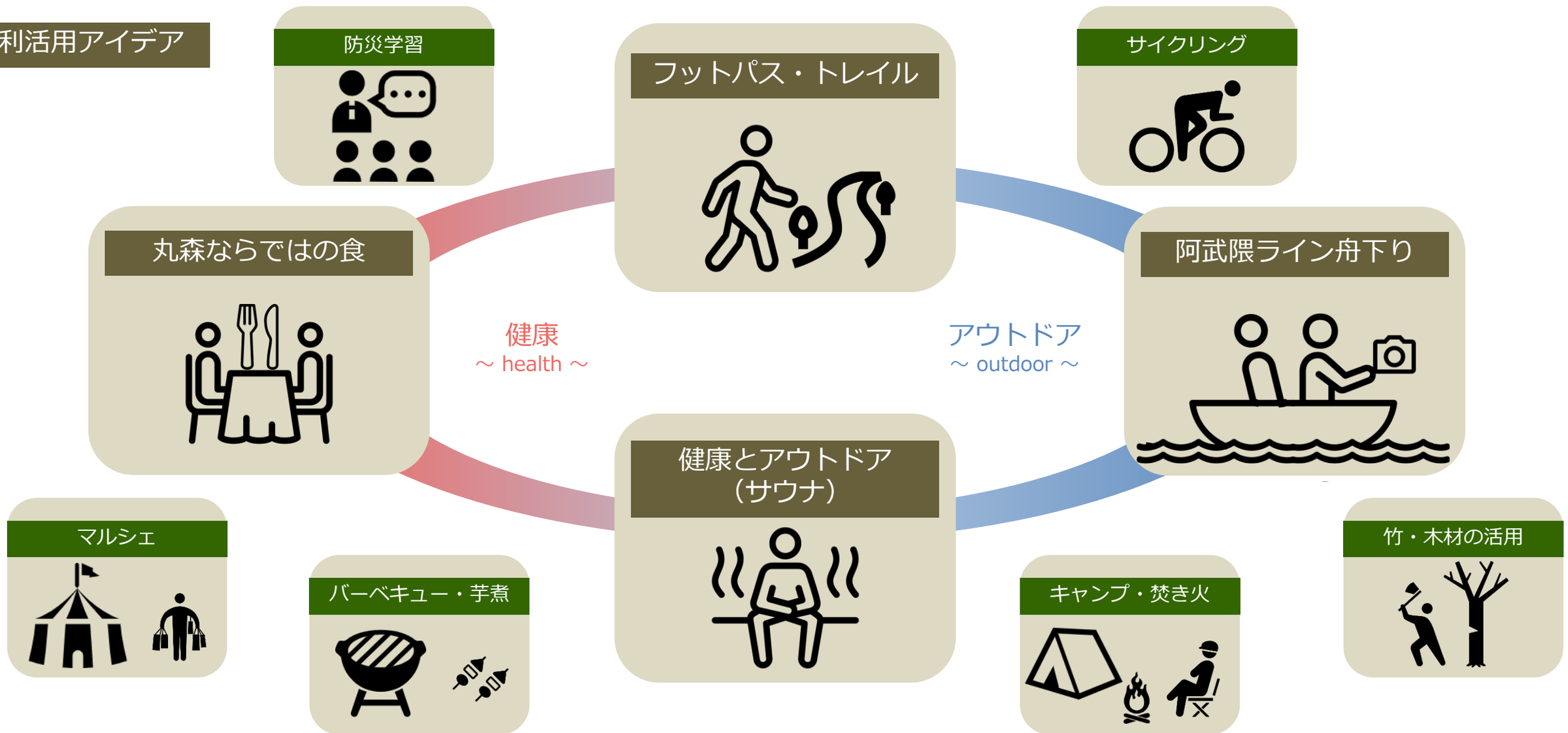
➢ 平常時の利活用方法については、他の類似施設との差別化を図りながら、「健康」と「アウトドア」をキーワードにした利活用アイデアを展開し、町内観光施設への周遊につながる賑わいづくりの拠点（ゲートウェイ）として整備する。

キーワード

健康　～ health ～　&　**アウトドア　～ outdoor ～**

訪れた人の健康増進に寄与するような野外アクティビティ等、丸森の豊かな自然を活かした利活用を展開する

利活用アイデア



（１）河川防災ステーション利活用方針　イメージパース（平常時）

水防センター・観光交流センター

・防災学習の場、観光案内、飲食・物販スペース、サウナ、阿武隈ライン舟下り、かわみなとフットパス、川風トレイルの拠点としての整備を検討
・敷地内にバス停を設置し、公共交通で来訪可能とする

芝生広場

公園・緑地、イベント会場、スポーツ広場としての利用

居久根の再現（緑化）

高低木を織り交ぜた樹木の植栽

川の駅

河川敷公園としての利用

眺望広場・プロムナード

阿武隈川の眺望を楽しめるスペース

イベント広場

マルシェや軽トラ市等を行えるイベント広場

ポケットパーク

既存樹木を保全
休憩施設の設置を検討

水辺への動線（階段・スロープ）

チケット売り場のある水防センターから船着場まで、階段・バリアフリー対応のスロープを整備

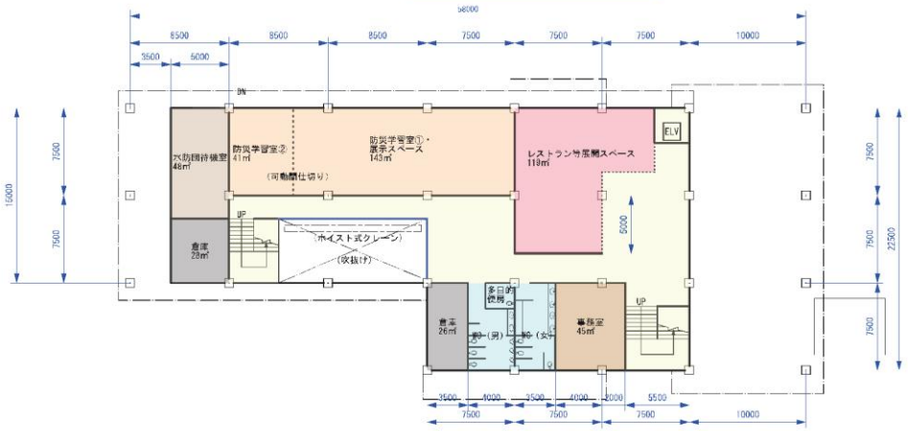
阿武隈ライン舟下り船着場

階段状の船着場整備を検討

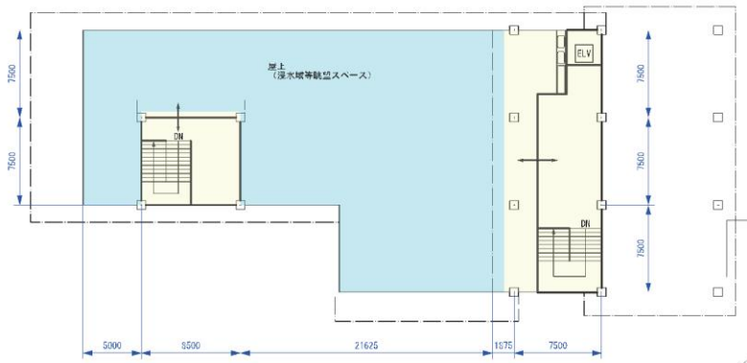
（２）（仮称）川の駅（水防センター＋観光交流センター）の整備方針

（仮称）川の駅（水防センター+観光交流センター）
ブロックプラン（参考エスキス例）　S=1:500（A3出力時）

２階ブロックプラン



３階ブロックプラン



建築面積：1,263.95㎡
延床面積：2,286.52㎡
（１階：1,263.95㎡、２階：766.13㎡、３階：256.44㎡）

１階ブロックプラン

【前回提示案からの主な修正点】

- 「民間事業者による事業展開を図るエリア」を明確化
- 建物前面（川側）にマルシェ等の展開を想定したスペースを確保
- 水防団作業場所として屋根付きの半屋外空間（アトリウム）を配置
- 浸水域等眺望スペースとして屋上利用を想定

【本ブロックプランの留意事項】

- 本案は現時点で想定される「（仮称）川の駅」の施設規模や機能構成を模式的に表現したものであり、今後の建築基本・実施設計により現案とは異なるもの（より良いもの）へと昇華させるべきものと考えている。
- 今後の建築基本設計・実施設計においては、設計提案を受けることを想定している。

（２）（仮称）川の駅（水防センター＋観光交流センター）の整備方針

（建物の建設および公共・民間の費用負担）

●建築はＳ造を想定。建築費は、現在の規模で約９．４億円を見込んでいる。

●建物は、テナント部分をアロケーションし、防災関連の補助事業を導入する予定。

●テナント部分は、町の起債等で整備し、民間事業者に一定程度の負担をお願いする予定。

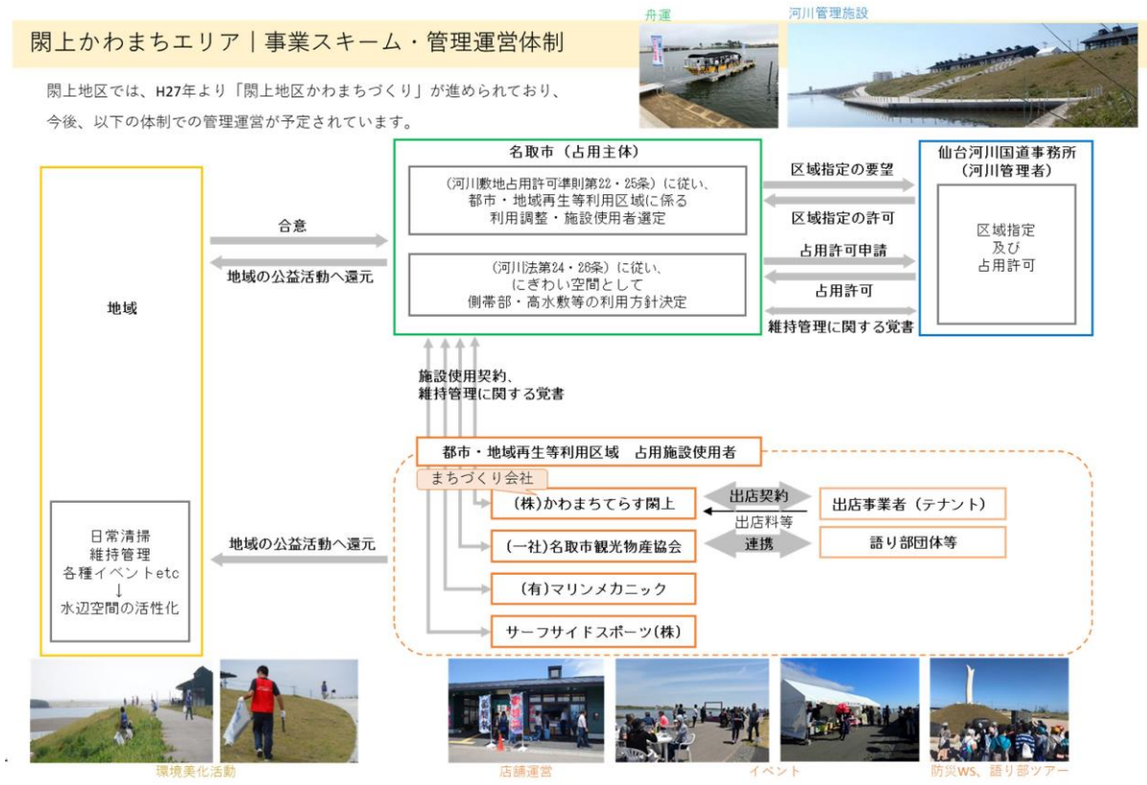
（「都市・地域再生等利用区域」制度を活用した事業展開）

●丸森町および民間事業者は、「河川防災ステーション」として整備される区域の内「備蓄資材置き場」を除いたエリア、および「かわまちづくり等」で河岸部の階段護岸などのエリアについて「都市・地域再生等利用区域」の指定を検討。

●丸森町は、仙台河川国道事務所（河川管理者）と、区域指定の要望・許可、占用許可の申請・許可の手続きを行う。

●丸森町は、このエリアで、アウトドア事業、飲食・物販事業、舟運事業、かわまち歩き事業などを展開する民間事業者と、「施設使用契約、維持管理に関する覚書」を締結する。民間事業者は、このような手続きを踏んで、河川という公共空間で営業活動が可能となる。（閖上かわまちエリアの事業スキームを参照）

階	諸室名	面積（㎡）	面積（坪）	災害時の機能	平常時の機能
1階	観光案内所（チケット売り場）	38	11.5	－	やまゆり館の機能を移転
	カフェ等展開スペース	81	24.5	炊き出し、要配慮者の受け入れ	テナント①
	物販コーナー	38	11.5	－	テナント②
	倉庫	26	7.9	－	テナント③
	水防資機材スペース	104	31.5	水防資機材を保管	水防資機材を保管
	ポンプ車車庫	128	38.7	出動後は支援物資の集配拠点	町有ポンプ車2台
	備蓄庫	75	22.7	毛布・飲食物など	支援物資の集配拠点
	屋外用倉庫	30	9.1	－	日よけやイス・テーブルを保管
	艇庫	52	15.7	救助用の艇	ゴムボート・ジェットスキー
	EV充電スペース	24	7.3	電源	キッチンカー
	水防団作業場所（アトリウム）	225	68.1	水防団作業場所	アトリウム
	その他（ｴﾝﾄﾗﾝｽﾎｰﾙ、ﾄｲﾚ・ｼｬﾜｰなど）	442.95	134.0	一時避難者にも開放	－
	計	1263.95	382.3		
2階	レストラン等展開スペース	119	36.0	要配慮者の受け入れ	テナント④
	事務室	45	13.6	－	指定管理者の事務室
	倉庫	26	7.9	－	〃
	展示ホール（防災学習室）	184	55.7	水防団指令室	防災学習展示
	水防団待機室	48	14.5	水防団員の仮眠・休憩室	水防団訓練時の打合せ
	備蓄庫	28	8.5	毛布・飲食物など	支援物資の集配拠点
	その他（展示ギャラリー、ﾄｲﾚなど）	316.13	95.6	－	－
	計	766.13	231.8		
3階	塔屋	256.44	77.6		－
	計	256.44	77.6		
テナントが家賃負担する諸室 計		264	79.9	全体面積の11.5%⇒テナントによる整備費負担割合は11.5%とする	
用途：倉庫となる諸室 計		718	217.2		
合計		2286.52	691.7		



（２）（仮称）川の駅（水防センター＋観光交流センター）の整備方針

（防災学習の考え方）

●令和元年10月の台風19号による災害（土石流、氾濫・浸水）をテーマとする。
●丸森町に暮らす住民・子供たちを主対象とし、河川の氾濫や土砂災害のしくみ、安全確保の手段や被災後の復旧方法などを身につけることを目的とする。
●川の駅に設ける展示ホール（防災学習室）は、広報・学習の拠点とする。
●屋外の被災箇所、防災事業（河川堤防整備、遊砂地整備、河川防災ステーション整備）を見学するルートを設ける。

（丸森町の小・中学生（2021年）と展示ホールの規模）

●小学校は８校、各学年１クラス、少人数のため学級を統合している学校が３校。最大は舘矢間小学校5年生の37人。
●中学校は丸森中学校が１校。最大では３年生の36人。
●防災学習室の規模は、生徒数を参考に検討する。

（語り部を育成し、県内の小・中学生の誘客を図る）

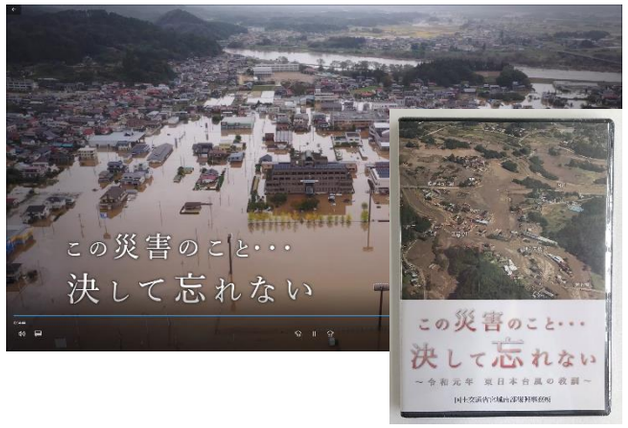
●水害や土砂災害は、身近で起きる災害。その特徴を踏まえ、県内の小・中学生の遠足や校外学習を誘致する。

宮城県教育旅行ガイドブック2021

防災学習に関する意見（住民説明会より）

・防災かまどベンチ。普段は公園のベンチとして使い、椅子を上げると「かまど」になる。炊き出しの訓練や東北の文化となっている芋煮会など、を通じて参加者同士がコミュニケーションできる訓練ができればいいのでは。
・普段から人が集まり、利用しやすい工夫。防火かまどベンチは、平時は使えないようなところもある。普段から使えないと災害時に使えない。子供たちの防災キャンプなど、学習の場としても平時から使える工夫が必要と思う。
・防災学習は知ることだと思う。丸森で起きた災害を分かりやすく展示したりすることも必要だと思う。
・防災には情報収集が大事である。国、県、町では、インターネットを通じた分かりやすい情報を発信しているが、見れない住民も多くいる。こういった情報を住民が自ら入手できるような防災学習も必要ではないか。
・展示室は、写真や記録の展示もいいが、子供たちの体験として、土のうをつめる、一輪車をつかう、バケツリレーをしてもるとか防災の知識を実体験できるようにし、年一回、これらを取り入れた防災運動会をやってみるなど、マスコミが食いつき、町外の人々が丸森に行ってみたいとなれば、子供たちといっしょに大人もくる。キッズパークの防災版のような体験施設になればとも思います。
・定期的に開催するマルシェや軽トラ市などのイベントの際に、重機の体験学習を取り入れることも考えられる。

防災学習展示の事例（宮城南部復興事務所　制作）



防災学習用DVD

防災学習用立体地図

防災学習の事例

防災学習（他事例）

水防活動訓練（他事例）

イベント（防災フェスタ）

（３）河川防災ステーションの施設レイアウト
備蓄資材置き場の修景デザインおよび土砂置き場のアースデザイン

➢ 備蓄資材置き場および土砂置き場については、平常時利活用に配慮したデザインとする。

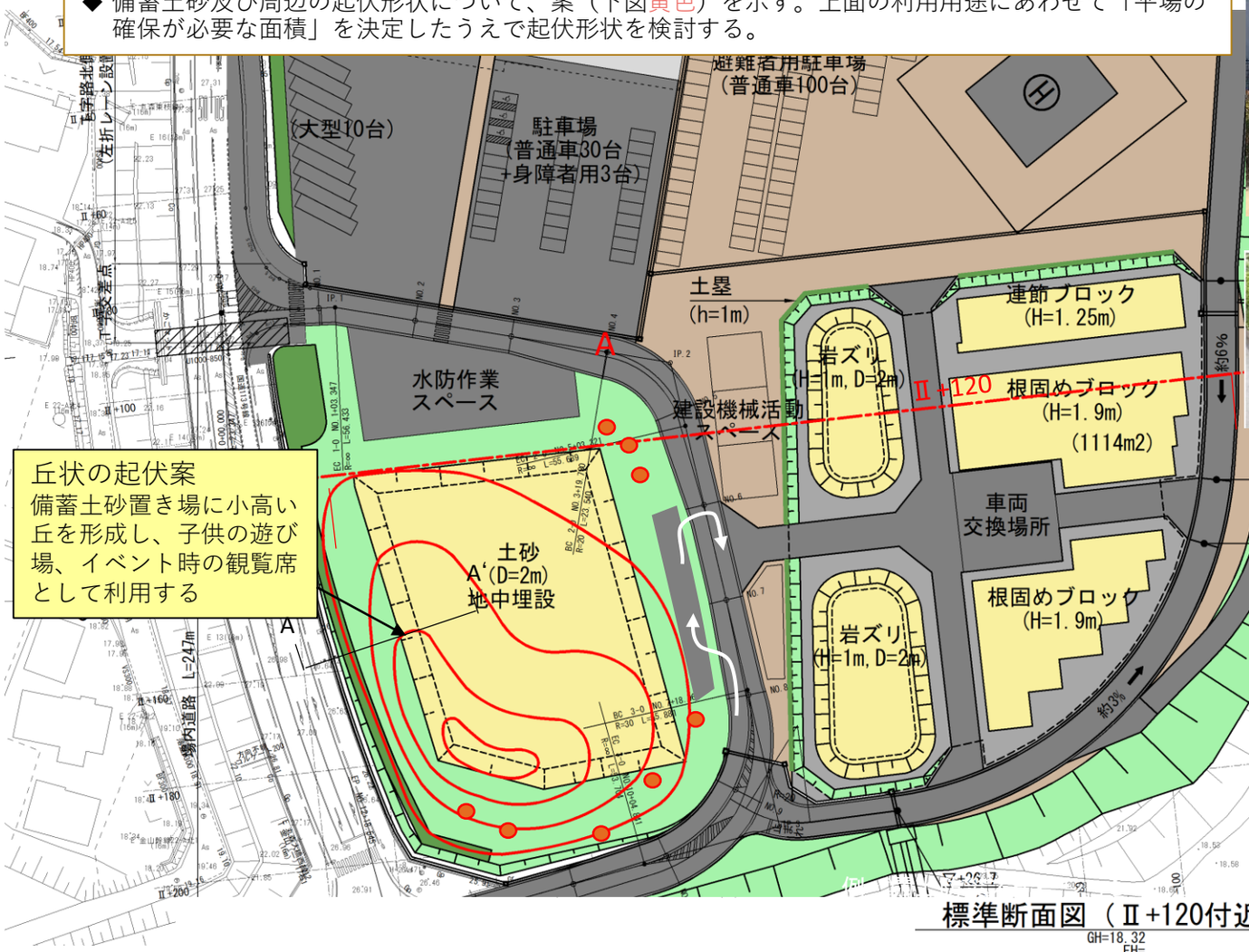
1. 備蓄土砂を地中埋設としている箇所について、子どもの遊び場となるように起伏をつけた仕上げとし、ところどころに緑陰を設ける。

2. 観光交流施設の平常時利活用のため、資材置き場は地盤を下げ、手前に土塁を設けることで備蓄資材を目隠しする。樹木、フェンス設置を含め、そのデザイン性に留意する。

備蓄土砂の仕上げ

◆ 備蓄土砂は、地中に埋設し、上面を平常時利用可能としている。非常時の作業を考慮し、場内道路側と備蓄土砂周回には重機が走行可能なトラフィカビリティを確保する。

◆ 備蓄土砂及び周辺の起伏形状について、案（下図黄色）を示す。上面の利用用途にあわせて「平場の確保が必要な面積」を決定したうえで起伏形状を検討する。



備蓄資材置き場の目隠し植栽、フェンス

【参考事例】

柵と生け垣の例：
雑司が谷公園（東京都豊島区）

生け垣の種類（葉を楽しむ・花を楽しむ）

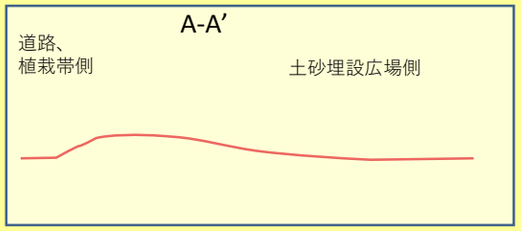
オウゴンマサキ

ラカンマキ

フェアリーマグノリア

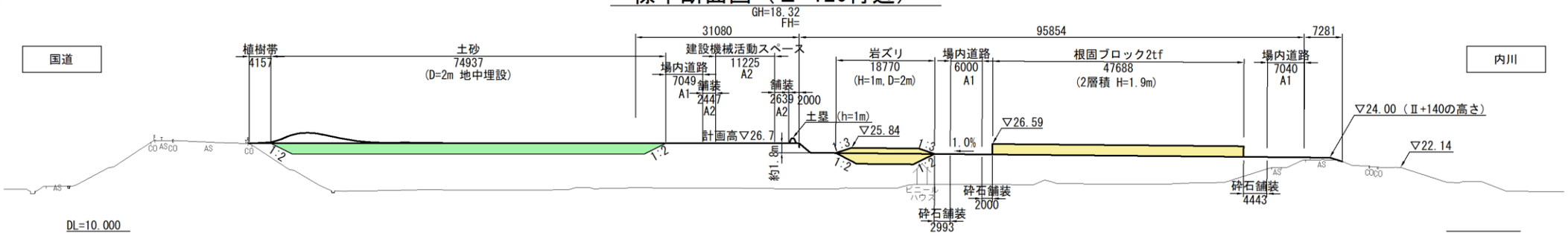
トキワマンサク

歩道から植栽帯、場内へ小高い丘状の盛土を連続する。丘の内側は平場ではなく、全体的に緩やかな勾配で水防作業スペースに向かって下る形状に整備する。



【資材置き場の段差】
一段下げることで、水防センターからの眺望に配慮し、上面の排水勾配を確保する。

標準断面図（Ⅱ+120付近）



（４）　かわまちづくり計画等の検討（かわみなとフットパス）

（かわみなとフットパスの整備・活用）

●丸森橋・丸森大橋、その間の左右岸・堤防を巡る「かわみなとフットパス」。約３km、徒歩で３５分程度の距離、要所々々の解説を入れて1時間程度か。

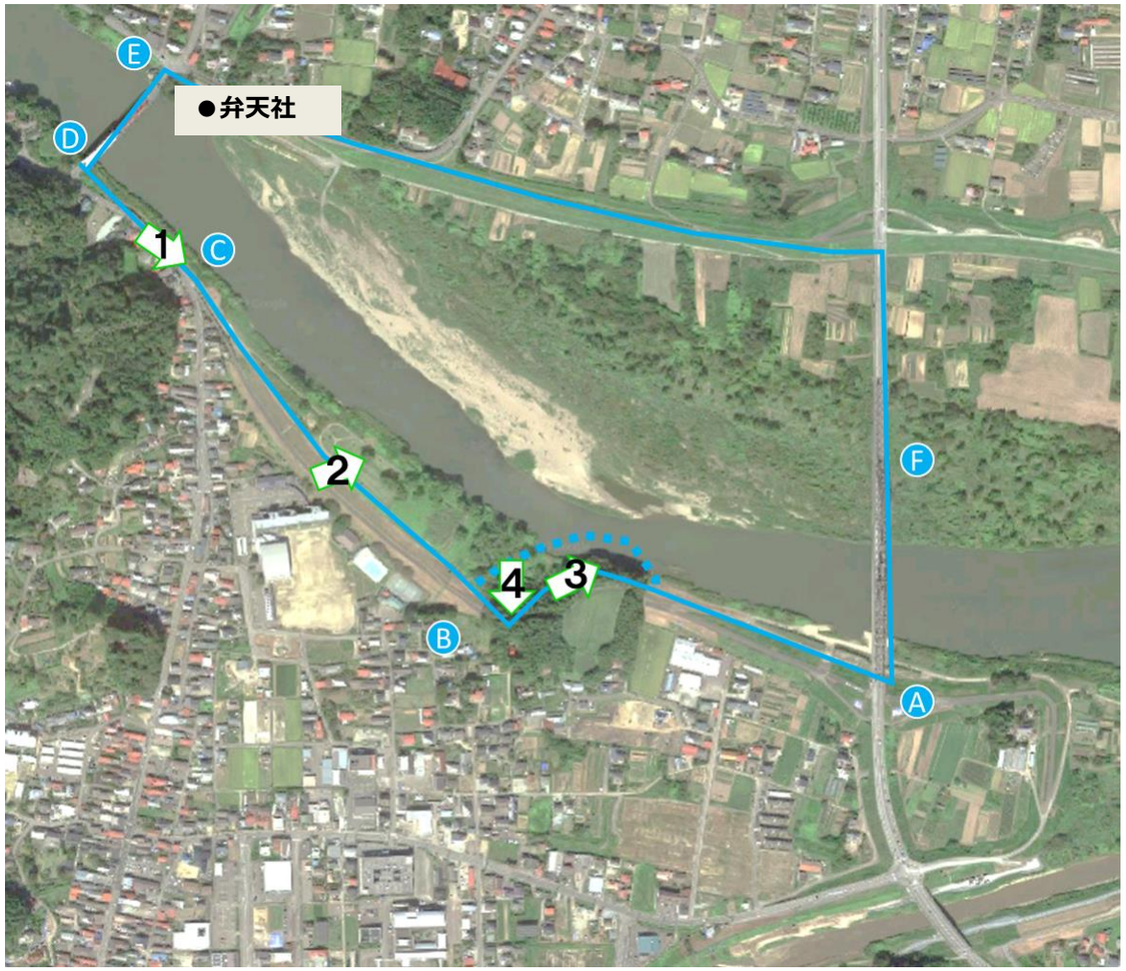
●新しく選奨土木遺産の記念碑が加わる予定。

●町場の観光施設（斎理屋敷や八雄館）などとの連携を図り、町内のフットパス（まちなかフットパス）も検討する。

●弁天社（選奨土木遺産記念碑設置候補地）

① 船場地区から

斎理屋敷と八雄館



Ⓐ河川防災ステーション・阿武隈ライン舟下り 乗船場 → Ⓑ鳥屋館→ Ⓒ船場地区（フラワーロード整備）→ Ⓓ丸森橋→ Ⓔ 姥石→ Ⓕ丸森大橋→ Ⓐ

かわみなとフットパス　約3km(徒歩約35分)

整備施設（案）　散策路、休憩スペース、眺望広場、フラワーロード（花壇）等

② 丸森中学校脇の阿武隈河川運動公園

③ 鳥屋館跡の散策路

④ 鳥屋嶺神社へ

（４）　かわまちづくり計画等の検討（川風トレイル、砂防事業の防災学習）

（ロングトレイルへの展開、砂防事業の防災学習との連携）

●トレイル愛好家向けに『川風トレイル』を設定し、他のルートとの広域連携を図る。

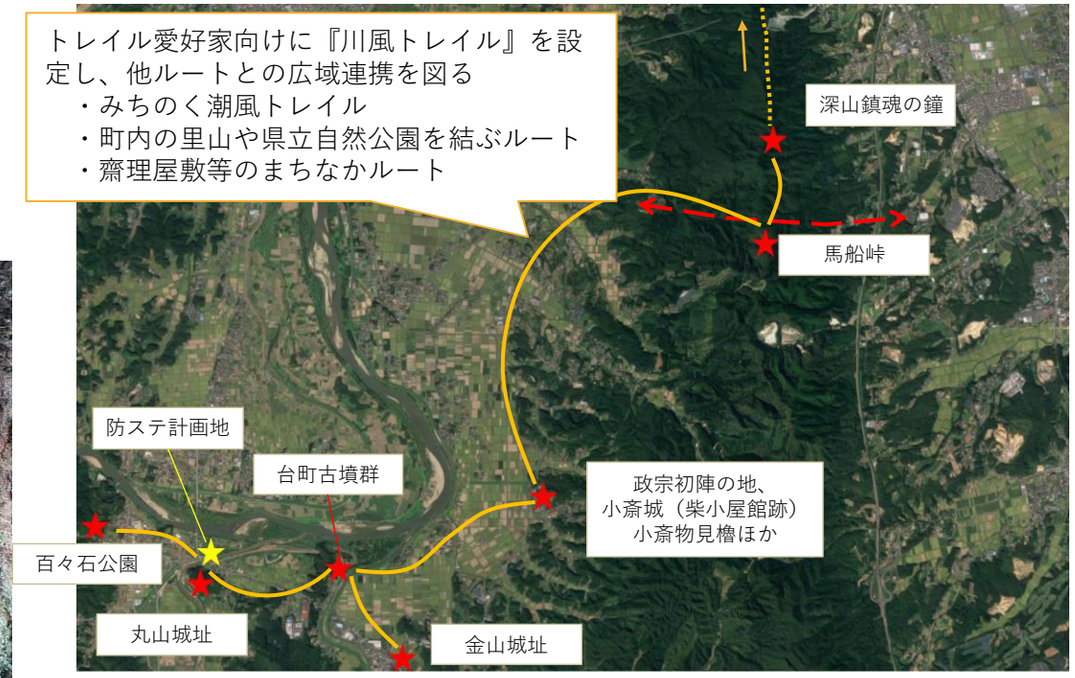
●また、新川・五福谷川・内川で展開されている砂防事業、特に「遊砂地」については、今回の災害復旧の要であることから、防災学習の見学ルートとして活用する。

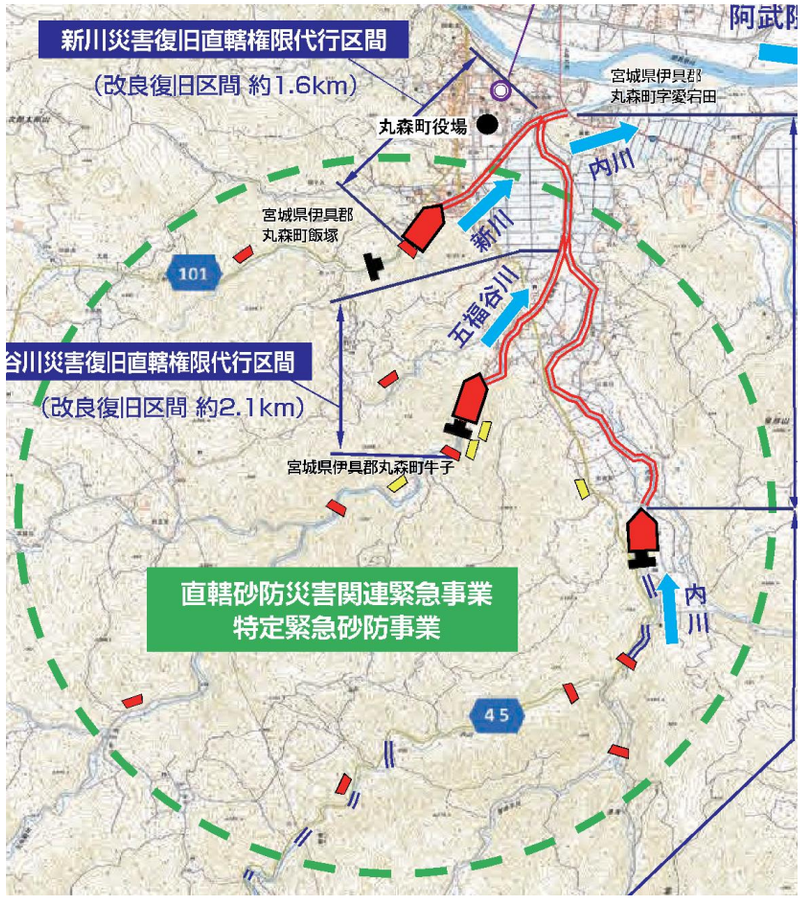
百々石公園からみた丸森橋（丸森町観光案内所ホームページより）

丸森城址

台町古墳群

五福谷遊砂地の整備イメージ（五福谷地区遊砂地整備に係るワークショップ提言書）

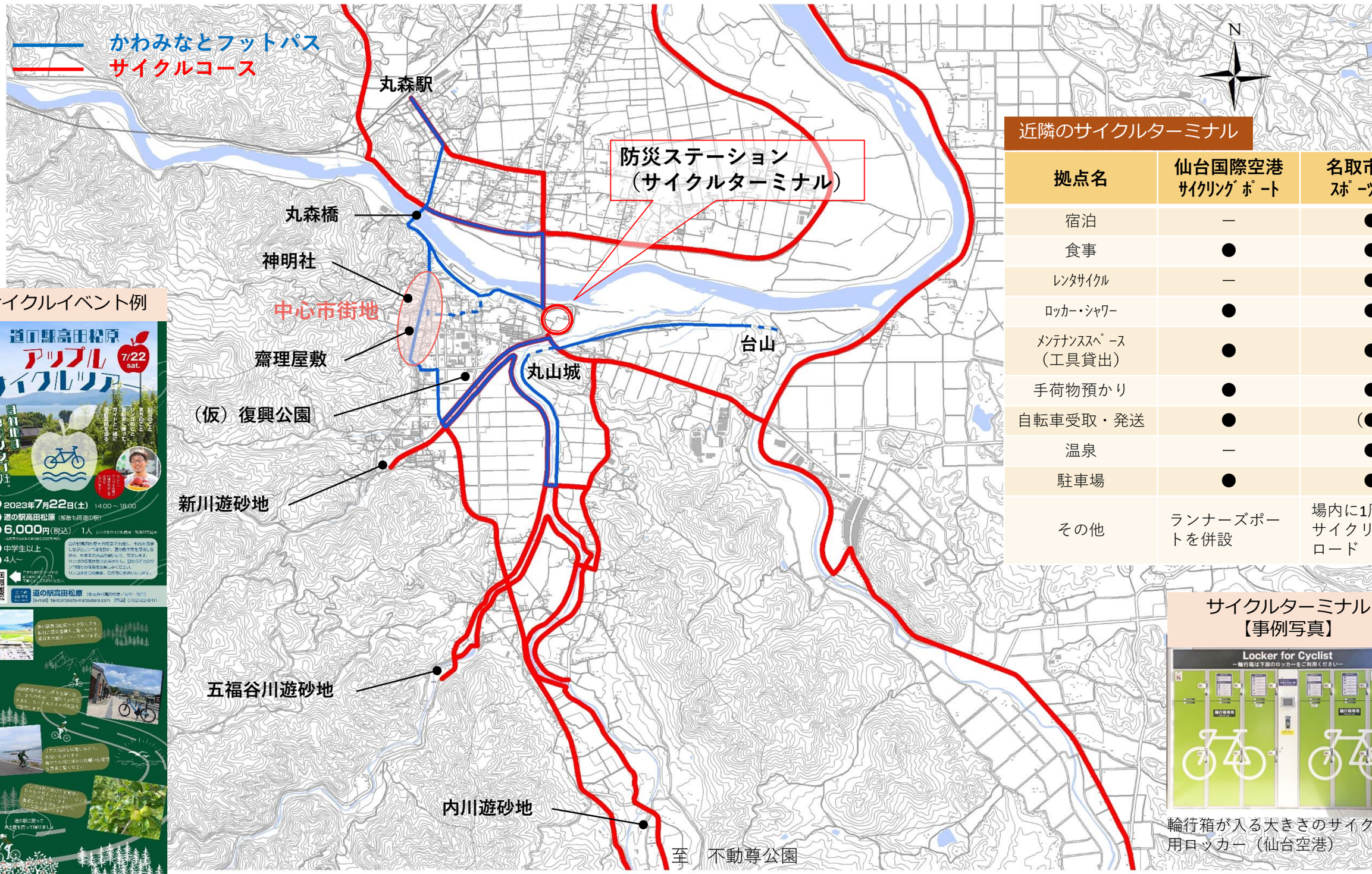




新川・五福谷川・内川の遊砂地の整備位置
（宮城南部復興事務所令和５年度事業概要より抜粋）

（４）　かわまちづくり計画等の検討（サイクルリング等）

サイクルターミナルを起点に、電動キックボードも利用できるようなサイクルコースを検討し、サイクリスト以外の集客を図る。また、町内の防災施設をコースに入れることで災害記憶の伝承・防災学習につなげる。



サイクルイベント例

近隣のサイクルターミナル

拠点名	仙台国際空港 サイクリング ポート	名取市サイクル スポーツセンター
宿泊	―	●
食事	●	●
レンタサイクル	―	●
ロッカー・シャワー	●	●
メンテナンススペース（工具貸出）	●	●
手荷物預かり	●	●
自転車受取・発送	●	（●）
温泉	―	●
駐車場	●	●
その他	ランナーズポートを併設	場内に1周4kmのサイクリングロード

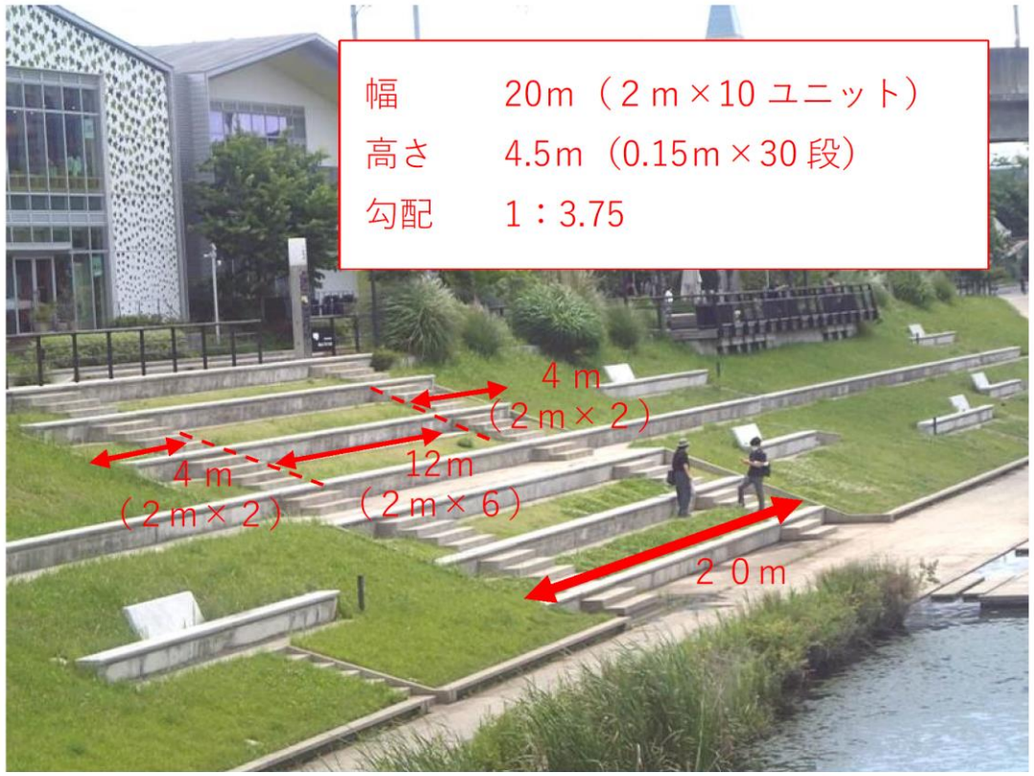
サイクルターミナル
【事例写真】

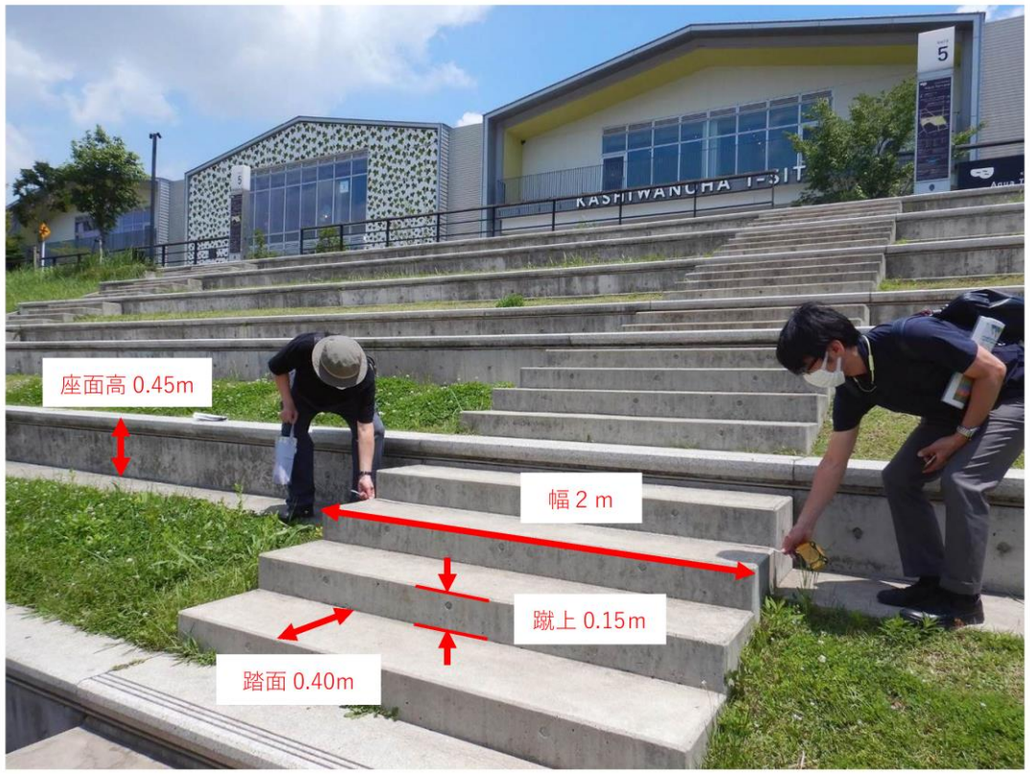
輪行箱が入る大きさのサイクリスト用ロッカー（仙台空港）

（４）　かわまちづくり計画等の検討（大階段のデザイン事例：柏の葉アクアテラス）

（大階段のデザイン：多機能の階段）

●「川の駅」前面の大階段（20m幅）は、アクセス・休憩・観覧席など多機能に利用できるデザインを検討します。
●その1例として、「柏の葉アクアテラス」（千葉県柏市）を紹介します。
●全幅は20m、両脇に幅2mで天端道路と水辺の散策路をつなぐアクセス階段があります。中央部の16mは、休憩やイベントで人が座りやすい高さ（0.45m）になっており、水辺のテラスの音楽会を楽しめる観覧席ともなります。





（４）　かわまちづくり計画等の検討（選奨土木遺産認定記念碑の設置）

（丸森橋が選奨土木遺産に認定）

●土木学会により丸森橋が令和４年度の選奨土木遺産委選定されました。

●選奨土木遺産とは、工学的機能と社会に果たしてきた役割、建造にあたった技術者の尽力・先見性・使命感などの点から貴重な歴史的土木構造物を選奨土木遺産として顕彰することにより、その重要性を広く社会に啓発し、ひいてはその保存に資することを目的として日本土木学会が設立したものです。

●丸森橋は、戦前に作られたプラットトラス道路橋として宮城県内に唯一現存している、石張りの橋脚も特徴的な貴重な土木遺産です。（1929（昭和4）年竣工）

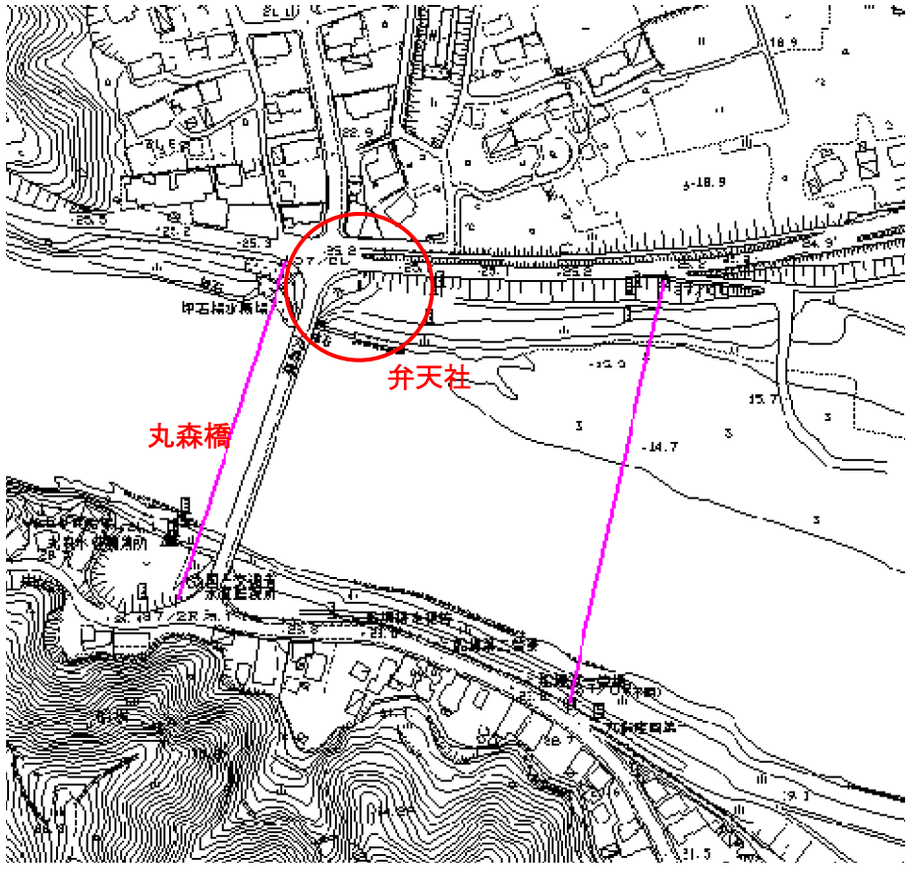
（選奨土木遺産認定記念碑の弁天社への設置を検討）

●丸森町では、丸森橋が選奨土木遺産認定されたことから、歴史的価値を広く周知するとともに後世に伝えるため、橋の歴史にもゆかりある弁天社の境内に記念碑を設置したいと考えています。

●かわまちづくりフットパスの立ち寄り拠点となります。

丸森橋

鳴子ダムの記念碑



丸森橋・弁天社位置図

弁天社からの眺望確保のための検討（伐採予定）

（５）対岸高水敷の樹木伐採　①

昨年度の検討内容

対岸高水敷の樹木伐採

防ステから対岸への良好な景観を復活

高水敷の樹木は、環境面の機能（生態系保全、景観形成）に加え、治水上の問題（流下能力の低下、偏流や高速流の発生の要因となる）にも関わる。

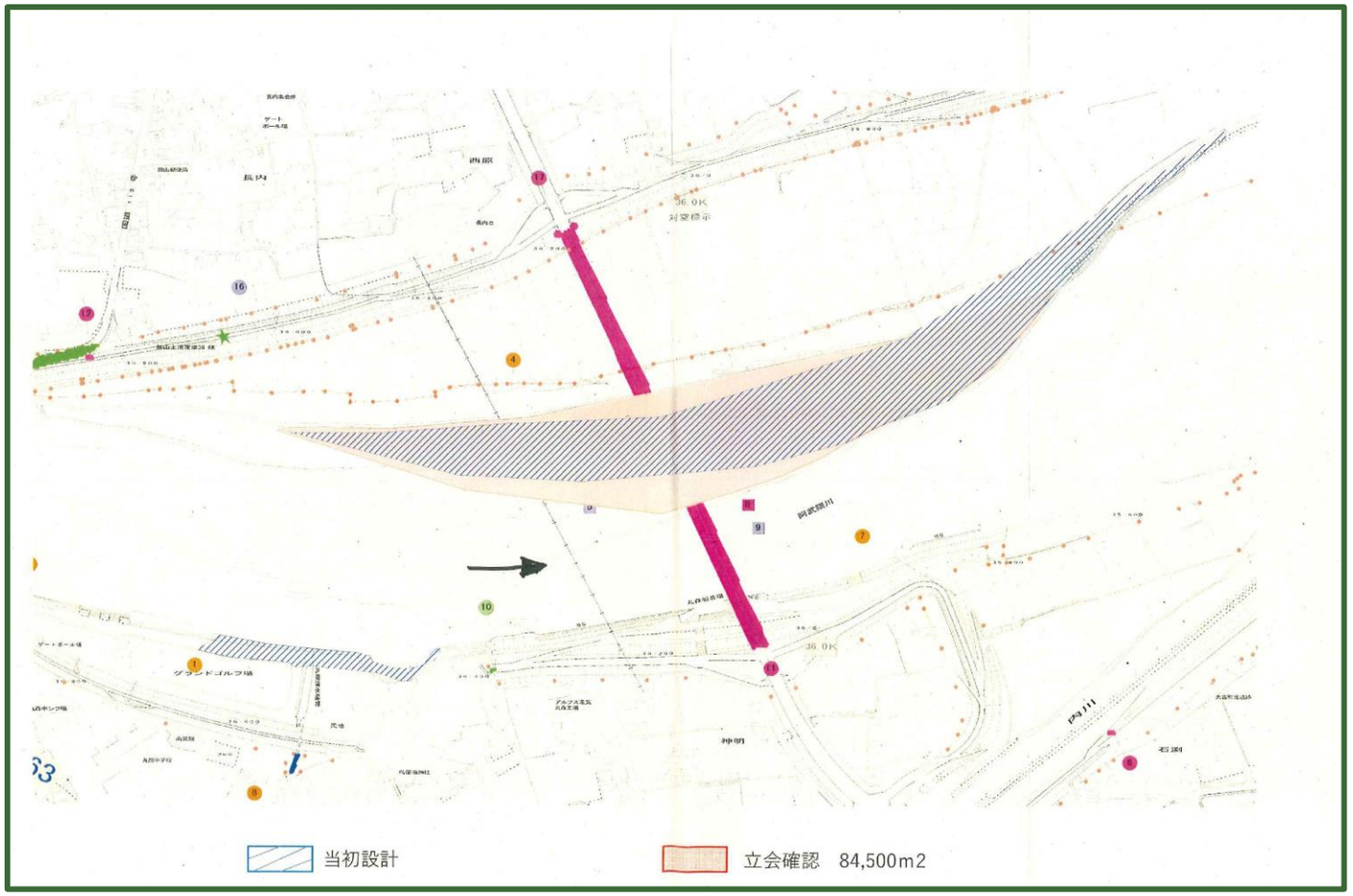
河川管理者による伐採・維持管理の他、近年は、伐採や再繁茂抑制に繋がる高水敷の利用において、民間活力を導入している事例もある。

樹木伐採時には、堤内民地での耕作を含めた防ステからの見えに十分配慮する。

民間による利用（例）

・樹木の再繁茂抑制のため、牧草生産地として利用する
・樹木の再繁茂抑制のため、マレットゴルフ場等として、日常的に住民が利用する
・樹木の伐採や重機の操縦等、防災に関するイベント・ワークショップのフィールドとして利用する

樹木伐採の立会確認箇所（令和5年6月）



（５）対岸高水敷の樹木伐採　②

高水敷の樹木伐採について

（R5.6.23）丸森町総務課／仙台河川国道事務所　角田出張所　打合せ資料

※枝分かれしている樹木は、マーキングした幹だけでなく、根元から残してください。

参考　～川風とれいる～

阿武隈川沿い歩いて・サイクリングでー
里山の自然、古墳時代からの歴史にふれるコース

川風とれいる 約00km(徒歩約00時間00分)

Ⓐ丸森駅→　Ⓑ大楯館跡・坪石→　Ⓔ姥石・土木遺産→
Ⓓ丸森橋→　Ⓒ河川運動公園（舟運）→　Ⓑ鳥屋館→
Ⓐ河川防災ステーション→　Ⓕ丸山館跡→　Ⓖ台町古墳群→
Ⓗ桜づつみ公園→　Ⓐ→周遊バス→　Ⓐ

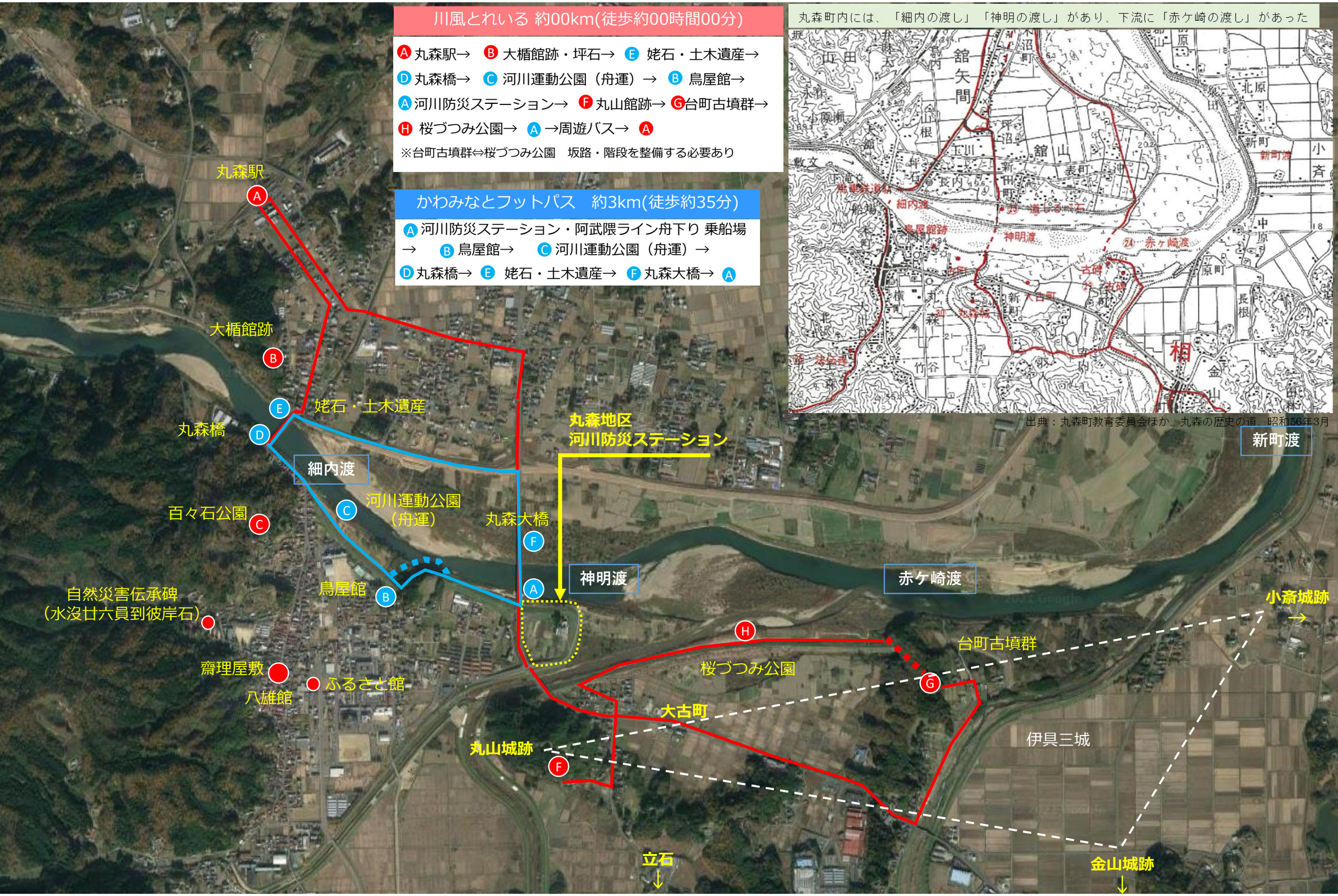
※台町古墳群⇔桜づつみ公園　坂路・階段を整備する必要あり

かわみなとフットパス　約3km(徒歩約35分)

Ⓐ河川防災ステーション・阿武隈ライン舟下り 乗船場
→　Ⓑ鳥屋館→　Ⓒ河川運動公園（舟運）→
Ⓓ丸森橋→　Ⓔ姥石・土木遺産→　Ⓕ丸森大橋→　Ⓐ

丸森町内には、「細内の渡し」「神明の渡し」があり、下流に「赤ケ崎の渡し」があった

出典：丸森町教育委員会ほか、丸森の歴史の道　昭和56年3月



～　川風とれいる　～

阿武隈川沿いを歩いて・サイクリングで

里山の自然、古墳時代からの歴史にふれるコース

□　丸森橋（モダン橋）

丸森橋

明治２０年代、槻木・中村間の人馬の往来が多くなり、架橋の機運が高まった。

はじめは、17 艘の舟をつないで、その上に橋を渡した舟橋、後に木橋となった。度重なる洪水は容赦なく橋を襲い、遅れること昭和４年に鉄骨の橋が完成した。プラットトラス橋として、トラス構造の美しい鉄橋はモダン橋といわれた。土木学会選奨により貴重な土木遺産に指定されている。

□　大楯館跡・坪石

天然の要害ともいえるこの小山は、平安の頃の安倍一族伊具十郎平永衡（大河ドラマ「独眼竜政宗」では新沼謙治が演じた）の陣地であったとか、鎌倉時代には亘理氏の祖、武石氏の居城であったなど様々な言い伝えがある。仙台藩家臣細目修理氏が居城したとも伝わる。本丸を中心に曲輪をめぐらした古典的な山城とされている。

大楯館跡の麓にある坪石と呼ばれる大石は、細目氏の奥方屋敷の庭石と伝えられている。その昔は「壺石」と書き、壺は園の意味、庭園・庭を意味する。また、乳母石で、乳が出るように祈った石の神

様、石を削ってお湯に入れて飲んだ。後に坪石となったともいわれている。

□ 姥石・竜宮城

丸森橋左岸足元に姥石と呼ばれる石（大姥石と小姥石）がある。坪石と繋がっているとも伝わる石。

「姥石付近の朝草刈りに来て、きれいに咲いている藤の花に見とれ、手に持っていた鎌を水中に落としてしまった。姥石の根元に見える鎌を拾い上げようとして若者が飛び込んだところ、石の下の小さな穴、その奥が明るく輝いている。入っていくと美しいお姫様たちに迎えられ、ごちそうを出され、歌や踊りで夢のような毎日を過ごした。そこは竜宮城であった。数日たって家に帰りたくなり戻ってみると、村はすっかり変わっていてだれ一人知っている人はいなかった。やっと家にたどり着いた。若者の家に一人の老人が訪ねてきた」とな。

□ 舟運

江戸時代初期、福島の信夫・伊達が天領になったことにより、その年貢米は「御城米（ごじょうまい・おしろまい）」として江戸に運ぶ必要が出たことから舟運がはじめられた。上流部は小鵜飼（こうかい）舟（約４０俵積み）、下流部（耕野沼の上・水沢下流）はひらた舟（約１００俵積み）が運行した。

後に商用を主とするひらた舟より小型の高瀬（たかせぶね）舟も作られた。高瀬舟は幕末には 90 艘ほど運行され、幕末から明治にかけて舟運の重要度は高かった。

急流があり瀬も多く、上り下りとも大変な苦労の伴う舟運が行われていた。丸森舟場は重要な川港として多くの舟が行きかっていた。

舟場の朝焼け

□ 弁財天

姥石の上に弁財天が祀られいる。金毘羅大権現や舟玉尊を祀った石碑があり、舟運の安全を願った水辺の神祀りと深くかかわりのあった場所と思われる。弁財天隣の大石には、舟橋を固定した当時の支点が残る。

□ *あぶくまライン*舟下り

狭さく部を蛇行する舟下り

昭和 39 年 3 月「阿武隈ライン保勝会」が設立され、かつての阿武隈川舟運の歴史にあやかり、渓谷美を活かした観光舟下りが行われている。昭和 63 年には、阿武隈川および支流域が県立自然公園に指定され、川面から四季折々のすばらしい景観が楽しめる。ナイトクルーズやこたつ舟も就航している。

□ 鳥屋嶺（とやのみね）神社（通称とりやじんじゃ）

鳥屋嶺神社

平安時代の格式のある神社、延喜式内社陸奥百座（えんぎしきないしゃ）に登録されていることから、1000 年以上前に創建された由緒ある神社。五穀豊穣、家内安全、身体堅固にご利益があるとされている。現在の建物は、昭和 28 年の火災で焼失し再建された。

□ 鳥屋館跡

1601 年大條氏の時代に丸山城からこの鳥屋城に移り、以来明治維新まで続いた。最後の佐々氏は仙台藩着座格、たびたび奉行職を勤め三千石を領した。侍屋敷、町場共にこの館の東にあったが、たびたびの水害にたまりかね、願い出て 1804 年（文化元年）町場を西方の山の麓に移した。

□ 丸森大橋

平成 24 年、風景に配慮した流線形の新しい橋が丸森大橋として完成した。長さは 556m、通称「こころ大橋」とも呼ばれる。狭く不便だった国道 113 号線の交通が改善された。

□ 藩政時代の渡し

丸森大橋のすぐ下流は、古く「神明渡し」（丸森～舘矢間）のあった場所、さらに少し下流に「赤崎渡し」（金山～舘矢間）があった。1804 年の町場替えの後には、丸森橋付近に「細内横渡し」がつくられた。人が乗るのは小舟だが、馬を乗せる「馬舟」という船べりが低く幅の広い舟を用意している渡しもあった。他にも、お上の許しを得た渡しが設けられていた。

□ 伊具三城 ： 丸山城跡、金山城跡、小斎城跡（柴小屋城）

・**丸山城跡** 伊達家 14 世**植宗**（たねむね）（政宗の祖祖父）が晩年に 17 年間、この城で隠居生活をした。78 歳で亡くなりここに葬られ、「植宗の墓」が建っている。没後約 50 年を経て、城主**大條**（おおえだ）氏の時代に阿武隈川河畔の鳥屋の丘に館を築き移った。三千石。

本丸跡西隣の伊達植宗公墓碑

・**金山城跡**　標高117mの小高い山城。相馬藩が築城した。その後伊達の領地となる。長く治めた中島氏は、仙台藩の一族として奉行などを勤め、藩政の中枢にあった。中島氏の菩提寺は瑞雲寺、初代から15代までの館主と一族の墳墓があり、町指定文化財。二千石。

小富士山から望む金山城跡

・**小斎城跡（柴小屋城）**　小斎は「石なし、下戸なし、百姓なし」と言われてきたところでもある。仙台藩一族で家臣は多かったものの、農耕もしなければならなかった。本職としての百姓の数は少なかった。一千石。金山、小斎地域は、戦国時代に伊達勢と相馬勢の争いをしており、15歳の伊達政宗が父輝宗（てるむね）とともに戦った初陣（ういじん）の地とされている。

小斎城跡西方の物見櫓より丸森方面を望む

□　大古町

出土したかわらけや井戸枠などから、かなり権力を持っていた人々が住んでいたと考えられている古代から中世の集落跡の遺跡。井戸枠は、平泉柳の御所の井戸と類似しており、奥州藤原氏との関わりがあったと考えられる。常滑焼や中国産陶磁器等は、阿武隈川を利用して運搬されたと推測されている。

□ 台町古墳

長さ３３ｍの前方後円墳、直径２５ｍの円墳など１７８基の古墳が確認され、遊歩道が設けられている。古墳中期から古墳後期の古墳群と見られている。県内でも数の多い古墳群。鏡、玉類、刀、埴輪等が多く出土され、一部は国立博物館に寄贈されている。壺を捧げる姿をした人物埴輪は大変珍しいとされている。

台町古墳群

□ 立石～的石

丸山城跡から１キロほど南の山のてっぺんに、立石と言われる大石が鎮座している。八幡太郎源義家が数キロ先、舘矢間の的石を目掛けて矢を射り士気を上げたとも、また、相手方の安倍貞任が石の上に登ったとも伝わる花崗岩の大石。高さは12.5m、周囲は25mあり、日本一の道祖神とも言われ、周囲から弥生土器や古銭が発掘されている。

□ 石碑が多い町、猫の石碑の数は日本一

町内の石碑は庚申塔や山神など 2,000 を超える。石碑のある穏やかな風景の中に、当時の生活や時代背景が感じられる。通称猫神様と呼ばれる猫の石碑は全国で１６０ほど確認されているが、宮城県では１１０を超え、そのうち丸森町内では８４基確認されている。全国一猫碑の多い町。

養蚕の産地であり、ねずみを退治してくれる猫を大切に供養したこと、花こう岩の産地でもあったことなどから多くの猫碑が建てられたと考えられている。

また、「一代塔」と彫られた石碑は丸森町だけに見られる石碑で、35 基（丸森 27 基、大内 4 基、筆甫 4 基）確認されている。同年齢だけでなく同地域や仲間達が講を催し、災難にあわないように祈ったものといわれ、修験者が深くかかわりを持っていた。他に珍しい石碑として、鶴供養の石碑や狼の石碑などが存在する。

狼の石碑（大内鬼ケ柵）

□ 阿武隈急行線

明治２０年、上野・塩釜間の鉄道が開通する。伊達地方にも鉄道敷設運動が高まったが、遅くして昭和４３年槻木～丸森間を国鉄丸森線として走る。第３セクター「阿武隈急行株式会社」を設立して、昭和６３年に槻木～福島間が全線開通した。船下りとあぶ急の並走する風景は人気があり、丸森駅とあぶくま駅には日本で初めての QR コード付き駅スタンプが設置されている。

丸森駅から７分のあぶくま駅（無人駅）は、秘境駅を感じさせる雰囲気がある。小さな駅舎には災害復興の象徴として「がんばっぺベンチ」が設置されている。

□ 県立自然公園

昭和６３年に阿武隈渓谷県立自然公園として、町内４つの地区が指定されている。

阿武隈川地区：両岸１００m以上の峡谷が１５km以上にわたっている。花こう閃緑岩と河岸の岸壁植物が河川景観に彩を添えている。ユキヤナギは分布の北限。

内川・岩岳地区：内川と支流の鷲ノ平川、岩岳、不動尊公園にかけては、花崗閃緑岩（かこうせんりょく）の岩塔が存在する特異な風景をみせている。動植物の生息・生育に優れた良好な自然環境がある。。

夫婦岩地区：霊山層と呼ばれる 2000 万年ほど前の火山岩に覆われている。岩稜・断崖が 4.5 ㎞ほど連続している雄大な自然景観。県内では他に見ることができない。

手倉山地区：雉子尾川の上流一帯で、太平洋側ではめずらしいブナ林が残る。モミ、イヌブナ、ブナなどの巨木の森を形成する貴重な植物群が見られる。タマアジサイは分布の北限。

手倉山のブナとシロヤシオ

※　その他

百々石公園～狭さく部の阿武隈川

高松遺跡（縄文）

丸松

堂平山（700 年前の歴史ロマン）

鹿狼山などの亘理地塁山脈

天狗の宮（剣豪高城飛剣）

愛国米の記念碑

など々

1 重点戦略の設定

本町のさらなる観光振興に向け、特に重点的に取り組む内容を「重点戦略」と位置づけ、本計画の基本戦略の中で、施策体系に囚われることなく横断的かつ重点的に取り組むことで観光振興に大きな効果が期待される施策で、町民・民間事業者・行政がともに連携し、積極的に事業を推進するものです。

重点プロジェクト1

齋理屋敷を含めた周辺整備プロジェクト

「蔵の郷土館齋理屋敷」は本町の観光交流施設の中でも知名度が高く、これからも観光誘客の中心を担っていく重要な資源です。引き続き、文化財の価値を守りながら、齋理屋敷の活用及びその周辺の活性化を意識した整備を行っていきます。

主な取り組み

① 齋理屋敷前の道路のモール化の実現

(1) 主要地方道丸森霊山線(県道 45 号)の町道化と無電柱化

・町道木沼竹谷線の未整備区間が解消し、県道として求められる機能を満たしていることから、町道と現県道との機能交換により齋理屋敷前の道路の町道化を図ります。

・本町ポケットパーク交差点から商工会までの丸森霊山線西側の電話柱について、東側の電柱(電力柱)への電話線添架等により無電柱化を図ります。

(2)車歩道境界ブロックの撤去及びカラー舗装化

・町道木沼竹谷線の改良に伴い、大型車や通過交通が激減したことから、車歩道境界ブロックの撤去やカラー舗装化により、買い物客等の車の駐車スペースの確保や、町街並み散策のエリアとして整備します。

②蔵のイメージなどシックな街なみの形成

(1)歴史ある建築物の保存継承対策事業

・蔵の郷土館齋理屋敷や 旧丸森郵便局（現：アートギャラリー店)などの重要文化財をはじめ、歴史を感じさせる土蔵なども複数残されており、これら建築物の保存継承に努めます。

(2)住宅・店舗等景観配慮型改修の推進

・通りに面した住宅・店舗等の外観を蔵や日本古来の建築物のイメージへの改修や、改修が困難な建物については、板塀の設置などにより統一的な街並みを形成します。

③蔵の郷土館齋理屋敷の魅力アップ

(1)収蔵品のみならず、体験・飲食・物販等のコンテンツ充実

・齋理屋敷内での体験交流や飲食・物販等、民間事業者の利用を促進し、リピーターの確保に努めます。

(2)中庭再整備の検討

・隣接する町有地の利活用を含めた中庭の再整備を図り、施設の魅力アップを図ります。

重点プロジェクト 2

水辺の交流拠点整備プロジェクト

町では、大規模災害の際に防災活動の拠点となる河川防災ステーションの整備に向け検討を進めています。本来の水防センター機能に加え、平常時は町の観光交流拠点の機能を担うとともに、市街地をはじめとした町内の観光資源とのつながりや動線をつくることによって、一体的な観光振興を進むことが期待されます。今後の検討結果を踏まえ、新たな賑わいの創出に繋がるよう取り組んで行きます。

主な取り組み

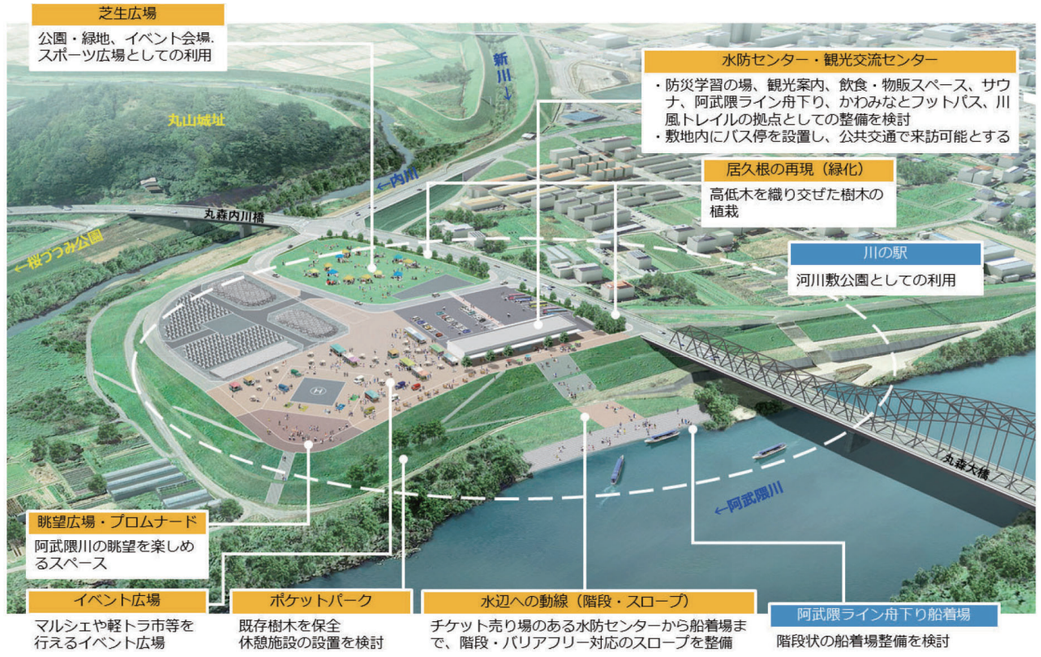
① 丸森地区河川防災ステーションの平常時の利活用

・健康＆アウトドアをキーワードとして、フットパス*・トレイル*、サウナ、阿武隈ライン舟下り、サイクリングなど様々なアイデアが出され、事業の具体化に向け民間事業者、関係団体等と連携し、町内への回遊性の向上を図ります。

② 周辺環境を活用した新たなコンテンツの造成

・河川防災ステーションの整備に合わせ、対岸高水敷の樹木伐採や水辺の楽校など周辺整備も計画されていることから、それらを活用した新たなコンテンツの造成に努めます。

■丸森地区河川防災ステーション　整備・利活用イメージパース（平常時）



＊**フットパス…**イギリスで「歩くことを楽しむための道」として発祥したもので、森林や田園地帯、古い街並みなど地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くこと。

＊**トレイル…**登山道といった、自然歩道、自然遊歩道などの未舗装道路のこと。またはこれらの道路を自然散策を主な目的として歩くこと。